

『 増やしていこう 西小のじまん 』

藤枝市立西益津小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	入学式（1年生） 1年生を迎える会（全学年） ペア顔合わせ 校内子ども会	友達のいいところを 見つけよう ◎人間関係づくり プログラム③自己表現	職員会議による 提案
5月	運動会（全学年）	◎人間関係づくり プログラム④ 対処・対応	子どもを語る会
6月	全校集会		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">                     ピア・サポ ート活動の 共通理解・ 呼びかけ・ 価値付け                 </div>
7月			
8月	校内子ども会		
9月	全校集会②	友達と協力しよう	
10月	6年生修学旅行 就学時健康診断		
11月	亀城祭（全学年） 全校集会③ 5年生自然教室		
12月	学校保健委員会（6年生）		
1月	長縄大会（全学年） 校内子ども会	感謝の気持ちを 伝え合おう	
2月	6年生ありがとうの会 （全学年）		
3月	全校集会④ 卒業式（6年生）		

【年間を通して】日々の授業の実践の中で  
クラブ活動 ペア活動 など

【年間を通して】「見つけました 亀城ツ子のいいところ」  
友達のよいところ見つけて書く。昼の放送で紹介する。

【年間を通して】児童会の活動  
ピア・サポート委員会の活動  
夕打ちでの情報交換

今年度の振り返り  
来年度に向けて

## 1 本校のピア・サポート

「亀城ッ子宣言」とピア・サポート〈提言1〉

「亀城ッ子宣言」は、田中城の跡につくられた西益津小学校で生活する子どもたちが、より良く生きるための指針である。子どもたちは毎朝「亀城ッ子宣言」を唱え、それを意識して生活している。特に『一、人をいたわります』『二、ありがとう・ごめんなさいを言います』は、ピア・サポートに繋がるものであり、学校生活の様々な場面で大切にされている。

本校では、帰りの会のいいところ見つけで、友達や自分の頑張り、友達から優しくしてもらったこと等を振り返り、いたわりの心を広めている。

## 2 特徴的な活動

### (1) 亀城ッ子の虹〈提言1, 5〉

毎日、各学級で「亀城ッ子宣言」について振り返りを行い、良いところを見つけた数を可視化していった。振り返りを行うことで、毎日唱える「亀城ッ子宣言」をより意識し、いたわりの心を広められるようにした。



### (2) ピア・サポート委員会が推進〈提言6〉

子どもたち同士で友達の良いところや頑張っているところを見つけ合い、それらを紙に書いてポストへ投函すると、友達の元に届いたり、昼の放送で紹介されたりする活動を常時活動として行った。「見つけました 亀城ッ子のいいところ」というコーナー名を委員会の子どもたちが考え、各学年にポストやメモ用紙を用意した。各学年のさまざまな良いところを具体的に紹介する場となった。

### (3) ペア活動〈提言5, 7〉

1, 6年生、2, 4年生、3, 5年生の異学年がペアを組み、年度当初の挨拶から始まり、昼休みに一緒に遊んだり、「亀城祭」では「亀城音頭」の練習を教え合ったりした。高学年が低学年の子どもたちの気持ちに寄り添いながら遊びを考え、実際の遊びの中でも、ペースを合わせてあげたり、優しく声をかけたりするなど、ピア・サポートを実践する場となった。低学年は、お兄さんお姉さんにしてもらったことを、自分が高学年になったときに行うということが毎年の積み重ねにより自然とできていくことを期待する。



## 3 本年度の成果と来年度に向けて

ピア・サポート委員会が、ピア・サポートの心を広めるために、自分たちでどのような活動を行ったらよいかを考え実行していくことで、ピア・サポートの推進者としての自覚が高まった。そして、昼の放送を利用することで、それぞれの学年の亀城ッ子の良さを知り、他学年からの刺激を受けながら、互いの良さや頑張り認め合う雰囲気づくりが学校全体でできた。

また、教師が「亀城ッ子宣言」を核とした指導を行い、子どもたち自身が「亀城ッ子宣言」を振り返る場を設けることで、自己肯定感や自己存在感・自己有用感が少しずつ高まった。

しかし、一方では、活動が形骸化しやすいという課題がある。まずは、推進組織であるピア・サポート委員会が自分たちの活動を常にふり振り返りながら、新たな風を巻き起こす工夫をしていきたい。他にも、職員間のピア・サポートに対する意識を高めていく必要がある。子どもたち一人一人が互いの違いを理解し、お互いを尊重し合って仲間を大切にできる人間関係を築いていくために、ピア・サポート担当が、研修会等で学んだことを職員へ広めていく場をつくっていくようにしていきたい。

